

午後2時10分再開

○議長（中島秀樹君） 休憩前に続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、2番和田庄治議員の質問を許可します。2番和田庄治議員。

（2番和田庄治君登壇）

○2番（和田庄治君） おととしの事故では、私の健康管理不足のために、多大なる議会と朝倉市に対してたくさん御迷惑と御心配をおかけして、大変申しわけありませんでした。今回この質問席に立てることを大変うれしく思っております。

以下の質問は質問席でさせていただきます。

（2番和田庄治君降壇）

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員。

○2番（和田庄治君） 入院中に九州北部災害が起き、病院のベッドの上で、動きがとれない自分に歯がゆい思いをいたしました。被害に遭われた方々、またお亡くなりになりました方々にお見舞い申し上げます。

今回の一般質問では、朝倉市の公共交通に関して幾つか御質問したいと思います。

この一般質問の前に、打ち合わせのときまでは、平成27年度までの地域公共交通会議の資料は出ていましたが、この一般質問の通告を打ち合わせをした後に、平成30年1月までの地域公共交通会議資料がインターネットのホームページで出ておりましたが、この地域公共交通活性化委員会に関しては、どのようにお考えなのかをお聞きしたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 議員がおっしゃいます協議会でございます。平成28年度、平成29年度ともに、年3回開催しているということでございます。

本年度につきましても、必要に応じまして、3回から4回開催する予定にしております。

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員。

○2番（和田庄治君） 平成30年度の1月の地域公共交通活性化会議の中で、モニタリング調査というのが出ておりますけど、その前のモニタリング調査と今回のモニタリング調査での問題点とかありましたらお聞かせください。

○議長（中島秀樹君） 交通対策係長。

○交通対策係長（浦塚武実君） モニタリング調査の関係ですけれども、前回行いましたのが、たしか平成26年だったと思うんですけれども、そのときの調査で問題点となりましたのが、やはり利用者からの声として、便数が少ないとか、予約を改善してほしいとか、そういった意見は出ておりました。そういった内容について、活性化協議会でも協議をしてきたところでございます。

その後の調査におきましては、たしか平成28年だったと思うんですけれども、ちょっと年度ははっきりしませんが、そのときも同じような要望等が出ておりました。以上でございます。

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員。

○2番（和田庄治君） 平成28年というか、平成30年にももう一回、1月の協議会の中でもモニタリング調査を行っていますよね。それに関することに関して、答えはありませんか。

○議長（中島秀樹君） 交通対策係長。

○交通対策係長（浦塚武実君） 恐れ入ります。平成30年の1月にも活性化協議会行っておりますが、そのときにはモニタリング調査は行っておりませんので、その報告はしていません。以上でございます。

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員。

○2番（和田庄治君） わかりました。

では、現在、朝倉市で市民から、路線バスの便利が悪いという声が大きく上がっております。このことは協議会ではどういうふうに注視されていますでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 交通対策係長。

○交通対策係長（浦塚武実君） 路線バスの利便性が悪いということ御指摘受けましたけれども、協議会の中では、そのことについては御意見は出ておりませんでした。以上です。

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員。

○2番（和田庄治君） 平成30年1月の協議会では、委員のほうから協議会の中で、コミュニティバスとデマンド交通に関して、いわゆる併用という形で使われていると出ていますけど、それは間違いはないんですかね。

○議長（中島秀樹君） 和田議員、もう一度質問をお願いいたします。

○2番（和田庄治君） 私の資料では、平成30年1月の協議会の中で各委員より、今、路線バスの不足分を解消するために、コミュニティ、またはデマンドという形で並行的にやっているというふうに出ていますけど、これは、その内容は違うのかということを知っているんです。

○議長（中島秀樹君） 交通対策係長。

○交通対策係長（浦塚武実君） コミュニティバスの話が出ておまして、コミュニティバスというのは、基本的な考え方といたしまして、路線バスを補完する、路線バスが走っていない、もしくは路線バスでは行けないところについて、それを補うためにコミュニティバスを走らせております。そういう意味で補完するというふうに出ています。

デマンドバスとコミュニティバスのちょっと定義があるんですけども、デマンドバスというのは、予約に応じて走るのがデマンドバスでございます。コミュニティバスと申しますのは、市が何らかの運営にかかわっている、市が運行主体であり事業主体であるというのがコミュニティバスです。ですから、コミュニティバスの中にデマンドバスがあると、運行方式によって。

それと、朝倉みたいにコミュニティバスもありますんで、ああいう定時定路線で行くの

は、コミュニティバスと言っております。それとデマンド、予約に応じて走るのがデマンドバス。それを包含する形でコミュニティバスというふうに言っております。そういうものでございます。

ですから、ちょっと何度もなりますが、路線バスを補完する役割として、市が最低限の公共交通を維持するという形で措置しているのがコミュニティバスでございます。よろしいでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員。

○2番（和田庄治君） では、今、朝倉市の市民の中からは、路線バスに関して、これは路線の問題ですけど、物すごく利便性が悪いと。いわゆる時間時間で、今、路線バスというのは運行しますけど、ない時間が多いというふうに。これは路線の問題ですから、企業の問題になるから、あえて私は質問には入れていませんけど。

これに関して、その不足分を補うために、コミュニティバスを運行したらどうかということ質問したいと思います。

○議長（中島秀樹君） 交通対策係長。

○交通対策係長（浦塚武実君） 済みません、私のほうでちょっと。路線バスとコミュニティバスなんですけども、路線バスはより多くの方々が使いますので、これはまず最低限維持していただく。民間のほうで維持していただかなければなりません。

そこに、市が主催するコミュニティバスを走らせますと、競合して両方が共倒れみたいになります。そういうことにならないように、路線バスを軸としながら、それに接続する形でコミュニティバスを走らせていくというのが基本でございます。

そういう考え方で、協議会の中では進めてまいりました。これはコミュニティバスを発足しました平成22年当初から一貫して、こういった考え方のもとに進めさせていただいております。以上です。

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員。

○2番（和田庄治君） では、仮に甘木観光に関して、路線の便数をふやすちいうこと、要請はしたことがありますか。

○議長（中島秀樹君） 防災交通課長。

○防災交通課長（二宮正義君） 要請はしておりません。

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員。

○2番（和田庄治君） では、なぜしないんでしょうか。的確にお聞かせください。

○議長（中島秀樹君） 防災交通課長。

○防災交通課長（二宮正義君） 今後の持続性を考えたときに、費用対効果の持続性の問題があるかと考えております。

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員。

○2番（和田庄治君） 実際、先ほど言いましたけど、繰り返しになりますけど、市民の

中には、路線バスの利便性が悪いという声は上がっているんですよ。それは、交通課のほうには来ているんでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 交通対策係長。

○交通対策係長（浦塚武実君） 年間数件は、直接問い合わせとか要望等があります。今、議員が言われましたとおり、便数をふやしてくれとかいう要望も過去にはありました。

ただ、市といたしましては、限られた予算の中でやっておりますので、できるだけ比較的1便と次の便との間があかないようにとか、例えば、鉄道の駅との時間帯をできるだけ調整するとか、そういったことで工夫をしてほしいというふうな要望は、事業者のほうと協議をしてきたところでございます。

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員。

○2番（和田庄治君） わかりました。

では、今、今回、甘木地区のバスの問題ばかり質問していますが、今回ちょっと飛躍して話しましょう。杷木・朝倉地区に関しては、今、西鉄の路線しか走っていないんですけど、そこ辺に関してどのようにお考えでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 交通対策係長。

○交通対策係長（浦塚武実君） 私のほうで済みません。

今おっしゃいますとおり、朝倉・杷木につきましては、西鉄甘木幹線が走っております。こちらにいたしましては、やはり経営が赤字ということで、路線の収支が赤字ということで、市としましては、もしくは活性化協議会の中で、今以上に便数を減らさないように努めてほしいということを協議会の中で確認して、西鉄にもその旨伝え、努力していただいているところでございます。

同じく、杷木から、東峰村にあります、小石原線、宝珠山線につきましても、こちらにつきましては、うきは市さん、日田市さん、東峰村さんと話して、こちらについても、今の便数をできるだけ維持できるように努力してほしいということで協議をしておるところでございます。

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員。

○2番（和田庄治君） そりゃ、杷木・朝倉地区で、便数を減らさんように努力されていることはよくわかります。

けど、乗降者数が上がらない理由は何だというふうにお考えでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 防災交通課長。

○防災交通課長（二宮正義君） 考えられますこととしまして、マイカーの普及ですとか、少子高齢化に伴います人口減少等が一番大きな要因ではないかと考えております。

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員。

○2番（和田庄治君） 今の時点で、杷木・朝倉から西鉄バスが、福岡市内のほうに向かって走っていますが、このバスが、いわゆる鉄道との連携というのは持てないんですか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 鉄道との連携ですけれども、こちらの朝倉・杷木地域のほうからは、福岡のあたりまで行っているところでございます。鉄道につきましては、朝倉街道駅で西鉄電車のほうに接続しているという状況でございます。

乗降客のニーズはいろいろありまして、例えば、高速バスで行かれる方等もありますけれども、鉄道につきましては、現状は今そういう状況でございます。

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員。

○2番（和田庄治君） 西鉄は朝倉街道までというのは、私も承知しています。

けど、杷木・朝倉地区からは一番近いのは、久大本線のほうが近いんじゃないでしょうか。うきは市に駅があると思いますけど、それに対してなぜ連結しないんでしょうか、バスを。

○議長（中島秀樹君） 交通対策係長。

○交通対策係長（浦塚武実君） 久大本線との接続についてですけれども、杷木バスセンターのほうで久大本線のほうには行けると聞いております。

ただ、いかんせん西鉄なり、会社の経営が基本ですから、それに準じて、うちのほうなり、市なり、沿線が要望していくことは可能なんですけど、あくまで考え方といたしましては、会社が主で考えていきますので、今のところ直接、久大本線と結ぶような線について検討がなされているとか、そういったことについては聞いておりません。

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員。

○2番（和田庄治君） これは今、杷木・朝倉地区で人口、朝倉全体の話ですけど、人口が減っていくというのは、そういうふうな交通の便という問題もあるんです。

仮に、今言ったのは、久大本線とのあれですけど、これを今まで甘木駅と直結できるシステムできていたら、ここまで深刻な問題になっていないというふうに私は考えますけど、それに関してはどういうふうにお考えでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 議員おっしゃいます、交通のアクセスがいいということにつきましては、定住なりにつながっていくということも私たちも認識しているところでございます。そのためにパークアンドライドとかも考えておるということは、交通の便と都市圏へのアクセスというのをいかに考えていくかということは、課題として認識しているところでございます。

個別の、先ほどから申します、個別のどここの線と、ここの線をくっつける、またはふやすとか、そういう件につきましては、いかんせん通常路線バスがあるものにつきましては、要請等を行いますけれども、決定につきましては、その会社が行うということになっているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員。

○2番(和田庄治君) わかりました。

では、ちょっと視点を変えます。今、既に甘木幹線のほうは西鉄がやっています。

なぜ私、西鉄に固執したのは、福岡とか久留米はよく見てわかったのには、発展しています。なぜかって、西鉄が参入して、西鉄がまちをつくっていくというのをつくります。

だから、この朝倉でも、西鉄がある程度発展させるという力をお持ちじゃないかと思うんですよ。せつかく地域公共交通会議に西鉄が入っているんです。委員として入っているんですから、そこは西鉄に相談するというようなことはできないんでしょうか。

○議長(中島秀樹君) 総務部長。

○総務部長(鶴田 浩君) 今、協議会の中身につきましては、先ほど議員がおっしゃいます利便性とか、もっと公共交通のあり方を考えるといったところをしております、例えば今、議員がおっしゃいます開発なりにつきましては、その協議会の中で具体的な話とか、そういうものが出てくる協議会ではないというものでございます。

○議長(中島秀樹君) 2番和田庄治議員。

○2番(和田庄治君) わかりました。

では、ちょっとこの題に関して、飛ばします。

次に、高齢者福祉に関してです。

今現在、朝倉市では、免許証を返納された方に関して、バスの乗車補助券のほうを渡していると聞きましたが、これに関してどういうふうに福祉課はお考えでしょうか。

○議長(中島秀樹君) 総務部長。

○総務部長(鶴田 浩君) 今の免許証返納の考え方ですけれども、平成25年度から行っているものでございます。70歳以上で運転免許証を自主返納した方に1万円相当の回数券、またはICカードを交付というような形で行っているところでございます。

返納者数は、制度創設当初、平成25年度は66名でしたが、平成29年度は162名となっております。高齢者の運転による事故防止と、公共交通の利用促進という面に役立てていただきたいというふうなことでしておりますけれども、人数がそのようにふえておること、目的を達しているといいますか、そういう状況が事故防止、公共交通の利用促進に振り向けられているのではないかと考えているところでございます。

○議長(中島秀樹君) 2番和田庄治議員。

○2番(和田庄治君) 今、総務部長がおっしゃったとおりですけど、今お答えの中で、ICカードというのが出ましたけど、私が説明を求めたときに、ICカードのことは一切ありませんでした。

今回の質問の中に私、ICカードに関してちょっと質問しようと思った。そのために、地域公共交通会議のことを言ったんです。

ICカードに関してなぜかという、これは別の自治体ですけど、福岡市では昔から、昔というか何年か前から、ICカードを高齢者福祉バス補助券として出していたんですよ。

去年やめました。

それを朝倉市でやったらどうかと、私はそれを提案したくてICカードのことを聞いた
ら、いや、ICカードではなく、免許返納された方の補助券を渡していますと、回数券を
出していると聞いています。

そのICカードですけど、今、それを高齢者の方にお知らせする場合、どういうふう
にしているか、もう一回お聞かせください。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 市の高齢者の運転免許証の返納につきまして、広報紙でお知
らせをしているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員。

○2番（和田庄治君） その広報紙なんですけど、私も何度かというか、毎回見ていま
すけど、ICカードに関しては余り詳しくは載っていませんけど、そのほかの、朝倉市には
福祉事務所があるんで、そういうところでは案内とかはやっていないんでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） このお知らせにつきましては、先ほどの目的がございま
すので、防災交通課のほうでお知らせの担当をしておるということでございます。

したがって、自主返納に関する取り扱いにつきましては、福祉事務所部門では行
っておりません、防災交通課で行っております。

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員。

○2番（和田庄治君） ICカードに関してですけど、もっと高齢者に使いやすくする
ために、もう一度徹底した周知を行ったほうがよろしいと思いますので、よろしく
願います。

今現在、朝倉市内では、このことを知らないというお年寄りが結構多くおられ
ます。これをICカード化というのは、やっぱりまだバスのほうが、市内の路線バスに
関して、まだ徹底されていけませんので、これは向こうの企業の努力にあると思
いますが、路線バスにもICカード化をできるように推進するよう、防災交通課と
して要請ができるか、協議会で協議できるかをお聞かせください。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 路線バスのICカード導入でございますが、現在では、
路線バス事業者2社、西鉄と甘木観光バスですけれども、そのうち甘木観光バス
路線では、ICカードシステムは整備されていないという状況でございます。

ICカードの導入につきましては、今申しました甘木観光バス路線について、
導入を働きかけるかどうかということでございます。

ICカードにつきましては、導入費と維持費がかなり高額であるというふう
に認識しております。把握しております。この額と言いますものは、運営する
ための額は、年間の運

○2番（和田庄治君） では、今後、回数券の議論とかされる予定はあるのでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 今、回数券につきましては、事業者のほうで取り扱いをしておりますということですが、回数券の割引とか、そういった回数券の取り扱いについて、活性化協議会で議論はしておりません。運営上のことだというふうに認識しております。

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員。

○2番（和田庄治君） バスは回数券の話じゃなくて、高齢者に対しての補助の問題です。この券を使って補助はできないのかという質問でした。これに関してお願いします。

○議長（中島秀樹君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（田中美由紀君） 高齢者の方の外出支援は、高齢者の方々が生きがいをもって自分の地域で暮らしていくために大事なことだと思っております。

コミュニティバスにつきましては、今、半額になっていると思います。

そのほか、介護保険のほうで考えている事業といたしまして、2つございます。

1つは、今年度から実施いたしております、生活体制整備事業でございます。この事業は、みんなで住みなれた地域で一緒に暮らしていくために課題を洗い出したり、今あるメニューを再確認したりするようにしております。そういう場で、もし地域の課題が交通手段ということであれば、この問題を解決するための方法を、地域みんなで話し合っただけというための支援をしていく事業を今年度から実施いたしました。

例を言いますと、例えば、買い物が困っているということであれば、地域でその課題を出しまして、じゃあ、みんなで1週間1回、地元の企業にバスに来ていただいて、それにみんなで乗って買い物に行こうかということで、企業と話し合いをしながら、人数が少ないといけないので、20人は集まりますとか。それだったら、バスは出しましょうとか。

それから、あるいは移動販売で、企業からバスで物を積んで来ていただいて、そこでみんなで買い物をしようとか。あるいは、もし運転できる方がいらっしゃれば、その方に一緒に乗っていく仕組みをつくらうかということで、例えば、無料だったらいけないので、地域で例えば1回100円ずつ出し合うとか、200円ずつ出し合うとか、そういうものを地域みんなで話し合っていくような生活体制整備事業というのを、今年度からやろうといたしております。

それと、もう一点は、要支援と認定された方とか、虚弱な高齢者の方々でございますが、こういう方に対しまして、介護予防・日常生活支援総合事業、略して総合事業と言っておりますが、それを平成28年3月から朝倉市では実施いたしております。

この総合事業のメニューに、移送サービスがございます。これは対象となる高齢者が自宅から病院や介護施設へ行く際に、NPO法人や介護事業所等の事業主体が送迎及び付き添い支援を行う場合に、市が実施主体に対しまして、サービスの利用調整に係る人件費、事務費等の一部の補助を行うものであります。

この移送サービスにつきましては、本年度から実施しております、第7期介護保険事業計画の中で位置づけを行っております、今後実施に向けた検討を行っていきたいと考えております。以上です。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 今、保健福祉部長のほうからは、介護と高齢者の仕組みについて申し上げましたが、私のほうからは、活性化協議会と運賃助成についての考え方を申し上げます。

コミュニティバスの導入当初で、協議会のほうで議論がなされております。その議論の結果といたしまして、運賃につきまして、65歳以上につきましては、半額とするというようにしておりますので、そういう面で補助といいますか、支援をしているということになります。以上です。

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員。

○2番（和田庄治君） 今のお答えで、本当ありがとうございました。今後も高齢者、今からもっと深刻な問題が起きると思います。どうかよろしく願いいたします。

では、これで、2番私の一般質問は終わります。

○議長（中島秀樹君） 2番和田庄治議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午後2時50分休憩
